

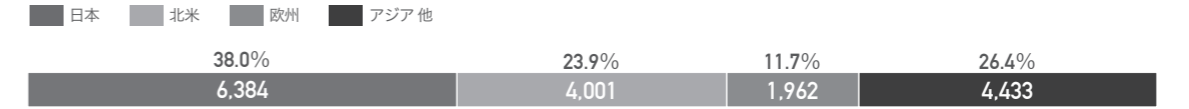
事業別ハイライト


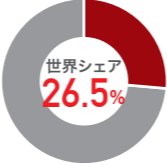
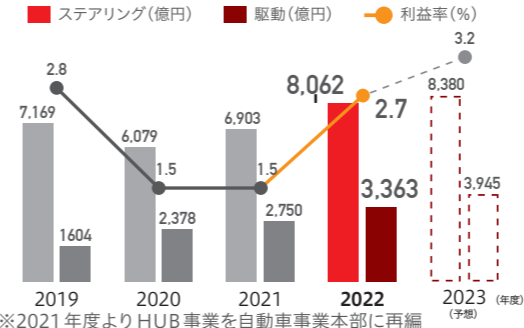


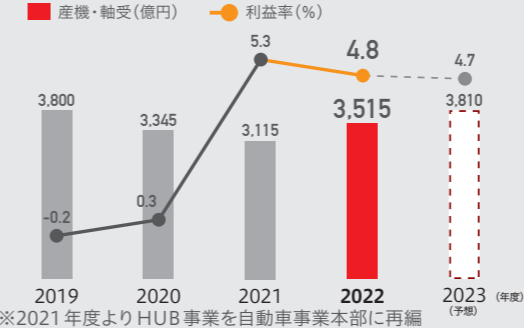

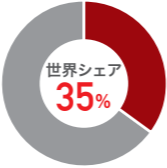
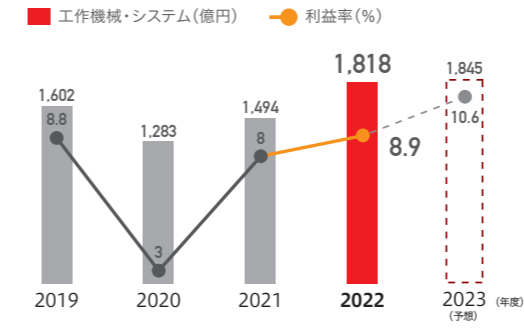


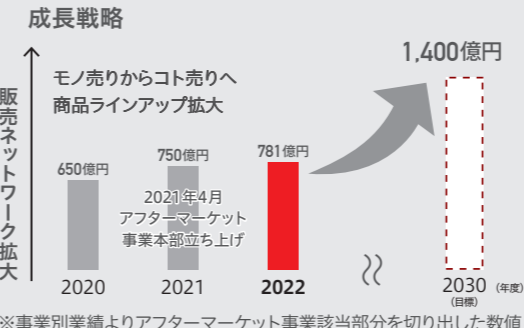
自動車事業、産機・軸受事業、工作機械・システム事業、アフターマーケット事業を軸に、時代の変化を捉え、多様なシーズを組み合わせることで、当社グループのNo.1 & Only Oneの技術・商品を生み出し、幅広い分野で深く社会に貢献しています。

事業別売上収益



地域別売上収益



事業の特長	No.1 & Only One	事業利益 / 売上収益比事業利益率	市場環境
 <p>自動車事業 p.37</p>	<p>当社のステアリングシステムは、コンパクトカーから商用車まで豊富なラインアップ。駆動部品ではシステム化・モジュール化をすすめ、安全・安心なドライビングを支えるとともに自動車の低燃費化に貢献しています。当社が誇る自動車部品の高度な技術は、世界中で高い評価を獲得しており、この先もリーディングサプライヤーとして「走る」「曲がる」の革新を続けます。</p> <p>EPSは世界で初めて開発・生産した1988年以来世界シェアNo.1[※]</p> 	 <p>ステアリング(億円) 駆動(億円) 利益率(%)</p> <p>2019 2020 2021 2022 2023(予想)</p> <p>※2021年度よりHUB事業を自動車事業本部に再編</p>	<p>自動車業界は、電動化や自動運転化の進展に伴い、市場環境が大きく変化しつつあります。例えば、新興車両メーカーの参入や台頭に伴い、開発期間短縮のニーズが増してきており、これらに対応できなければ、市場でのシェアを失う可能性があります。</p> <p>一方で、この変化は事業機会でもあり、多様なお客様のニーズに対応した、良質廉価な製品・サービス提供をし続けることで更なる事業成長を図ることができると考えています。</p>
 <p>産機・軸受事業 p.38</p>	<p>軸受は、自動車用から各種産業機械用まで幅広い回転部分に用いられる重要な部品であり、「産業の米」とも呼ばれています。</p> <p>当社は、様々な品種のベアリングをラインアップし幅広い分野に向け、お客様の使用環境・要求性能に適した軸受を提供することで、世界中の産業と社会の発展を支えています。</p> <p>重荷重・超高温の中でも、高速回転を実現する鉄鋼設備用軸受は国内シェアNo.1[※]</p> 	 <p>産機・軸受(億円) 利益率(%)</p> <p>2019 2020 2021 2022 2023(予想)</p> <p>※2021年度よりHUB事業を自動車事業本部に再編</p>	<p>自動車用軸受では、電動化により小型軽量化、低トルク化のニーズが更に高まっているため、これらをビジネスチャンスと捉え、No.1 & Only Oneの軸受を開発、BEVの電費向上に貢献します。</p> <p>また、産業機械分野では市場の裾野は極めて広く、軸受に求められる性能は多岐にわたるため、多様なグループシーズの活用によりお客様ごとにタイムリーで細やかな対応を行い軸受事業の更なる成長を目指します。</p>
 <p>工作機械・システム事業 p.39</p>	<p>機械や部品をつくり出すために必要な工作機械は「マザーマシン(機械の母)」とも呼ばれます。ジェイテクトの工作機械は自動車産業で培った高い信頼性と技能で、高生産性から高精度まで幅広いニーズに、良質廉価な機械を提供。充実のサポート体制で、様々な業界のお客様のモノづくりを支えています。</p> <p>1956年に国産初の研削盤を開発。円筒研削盤は世界シェアNo.1[※](特殊研削盤を含む)</p> 	 <p>工作機械・システム(億円) 利益率(%)</p> <p>2019 2020 2021 2022 2023(予想)</p>	<p>急速に電動化が進む自動車業界や中長期的に成長が見込まれる半導体業界に加え、省人化・カーボンニュートラル対応など工作機械業界へのニーズは変化し、多様化しています。</p> <p>このような市場環境の中で、研削領域の強みとグループ総合力で、製品ラインアップの拡充と、新しい加工技術・工法開発を推進してまいります。これまで培ってきた技術力を活かし車載用蓄電池関連の新領域にも挑戦する等、お客様のニーズ変化に迅速に対応し、事業価値向上を目指します。</p>
 <p>アフターマーケット事業 p.40</p>	<p>製品を生み出すだけでなく、循環型社会に貢献するために、補修市場において、グループ丸となって世界中のお客様に寄り添い、プロダクトライフサイクルを支えています。また、お客様視点で新たな価値を創造し、多種多様な商品、サービス、うれしさ、そして安心と安全をお届けします。</p> <p>世界各地の販売ネットワークと多様な商品ラインアップを活かし、補修市場でお客様になくてはならない存在を目指します。</p> 	 <p>成長戦略</p> <p>モノ売りからコト売りへ商品ラインアップ拡大</p> <p>販売ネットワーク拡大</p> <p>2020 2021 2022 2030(目標)</p> <p>※事業別業績よりアフターマーケット事業該当部分を切り出した数値</p>	<p>大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わるものとして循環型社会の形成が推進されており、補修市場への注目度が高くなっている中、自動車や産業機械の補修用軸受のほか、ステアリングや駆動部品を始め、お客様のニーズが増加しています。ニーズに応えられる商品ラインアップの拡充を進め、また、グループ会社や販売代理店も一体となって、お客様の声を直接聞き、求められる製品・サービスを提供していきます。</p>

※シェア率は当社調べ

自動車事業本部

クルマの基本機能である「曲がる」を支えるステアリングシステム、「走る」を支えるドライブライン製品、その他各種の重要機能製品を開発・提供しています。「曲がる」「走る」のトップサプライヤーとして、自動車の安全・安心はもちろん、今後多様化する自動車のニーズにたゆまぬ技術開発で応え、社会の発展に貢献していきます。

取締役経営役員
自動車事業本部長兼
研究開発本部長
松本 巧



足元の取組み	将来に向けた活動
<競争力の強化> ● 徹底的な原価低減や固定費抑制による体質改善 ● 競争力にこだわった次世代製品の開発・投入 <多様化するニーズへの対応> ● EV化や運転支援ニーズに対応した製品・サービスの提供	<新たな価値の創出> ● 小型車両～商用車まで様々な社会ニーズに対応した製品開発 ● 当社グループ全体でのシナジーを活かしたシステム開発 ● UX(ユーザーエクスペリエンス)に思いを巡らし、No.1 & Only One の顧客価値を創出及び提案～システムサプライヤー化への躍進～

2022年度の実績

2022年度は半導体不足による影響はあったものの、新型コロナウイルスの影響緩和による販売回復があり増収。また体質改善の成果と円安効果も加わり増益の結果となりました。

今後の見通し

2023年度についても材料費・エネルギー費の高騰が続く見込みですが、更なる体質強化を変動費・固定費の両面で推進し、自動車事業全体で2022年度の売上・利益を上回る計画を立てております。

足元の対応としては、本年度も「競争力強化」と「多様化するニーズへの対応」を継続してまいります。前者は競争力に徹底的にこだわり、設計・造りをゼロベースで見直した次世代製品を拡販し、成果を刈り取る段階に移行していきます。後者は自動車の電動化が進む中、高度化する市場ニーズへの対応に取り組みます。具体例としてeAxleの小型化・高出力化のニーズに対応するべく、超小型かつ高耐久なデフ「JTEKT Ultra Compact Diff.® (JUCD)」をはじめとした、様々な新製品を開発中です。

また中長期目線では、常に変化する社会動向から将来のニーズを先読みし、当社及び当社グループ会社の保有技術を集約することで、新たな価値の製品・サービスを実現し提供してまいります。

※ BS-EPSはジェイテクトの登録商標です。

No.1 & Only One に向けた取組み

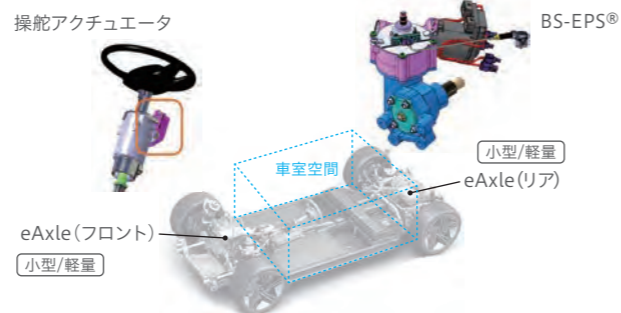
商用車における社会課題への対応

物流業界では慢性的なトラックドライバーの人手不足解消のために、将来の自動運転に資する技術の導入が急務とされています。

そこで運転支援を目的とした操舵アクチュエータの提供を開始しました。本製品を搭載することで、従来システムから大幅な仕様の変更無く運転支援が可能になります。加えて商用車における高出力対応可能な電動パワーステアリング「BS-EPS®」*も併せて開発しています。商用車のEV化や将来的な自動運転の実現にも繋がります。

このように、既に発表している「J-EPICS®」や「JUCD®」の技術も組み合わせ、安全・安心・快適(車室空間等)・カーボンニュートラルのUXに思いを巡らし、ユーザー目線の顧客価値を創出し提案してまいります。

※BS-EPS: ボールスクリュー電動パワーステアリング



産機・軸受事業本部

軸受は自動車用から各種産業機械用まで、あらゆる産業の回転部分に使用されており、見えないところで社会の回転を支えています。自動車分野では、電動化に向けた小型・軽量化や高速化などのニーズに対応した商品を提供。また産業機械分野ではロボット・半導体など、多様な使用環境に対応した提案型ビジネスの展開による価値・サービスの提供をしています。

経営役員
産機・軸受事業本部長
奥村 剛史



足元の取組み	将来に向けた活動
急激な環境変化に備えた盤石なモノづくりを確立するため、 ● 開発・試作リードタイムの短縮 ● VA/VE 活動の強化 ● TPS*に基づく生産性改善と生産技術革新 ● グローバル最適調達(サプライチェーン強化) ※トヨタ生産方式(Toyota Production System)	EV用軸受の拡充と産業機械の成長領域へのシフトのため、 ● 自動車: 高速化/小型軽量化による電費貢献No.1商品の開発 ● 産業機械: ロボット・半導体市場へのNo.1 & Only Oneの技術開発 ● 当社グループシーズの結集による付加価値商品の提供

2022年度の実績

2020年度より重点的に推進してきた足元の施策を引継ぎ、2022年度も構造改革や生産性向上などの地道な取組みの継続により収益体質を改善しました。また、新型コロナウイルス・半導体不足の影響からの回復、及び為替の効果もあり増収増益となりました。

今後の見通し

グローバルでは減産リスク、更なるインフレ、為替変動など市場環境は依然厳しく不透明なため、2023年度は、第一期中期経営計画の最終年度として外部環境の変化にも耐えうる安定した事業基盤を確立してまいります。

中長期的には、自動車用軸受でのシェア向上を図りつつ産業機械用軸受へのシフトによる販売拡大を目指します。成長する市場に対して事業・グループ間シナジーを活かした高付加価値製品を投入していきます。特に自動車の電動化対応では当社グループシーズを活用することで電費向上に貢献し、それらの技術を産業機械用軸受にも展開してお客様のニーズに対応した商品開発の強化を図ります。

さらに産業機械では、今後特に成長が見込まれるロボット・半導体分野に加え、基盤領域である工作機械・鉄鋼・農建機等に対してもグループ会社のコア技術を結集し、モノづくりにおける生産技術革新で、No.1 & Only Oneの商品・サービスを提供します。

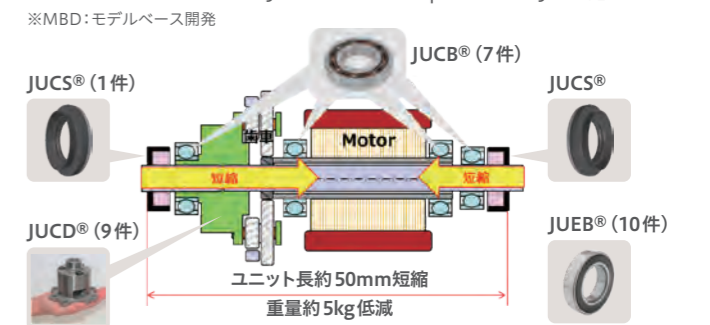
※ JTEKT Ultra Earth Bearing及びJUEB、JTEKT Ultra Compact Seal及びJUCSはジェイテクトの登録商標です。

No.1 & Only One に向けた取組み

電動化に向けた電費向上による貢献

今後の市場拡大を見据え、更なる小型化・軽量化・耐電食性でBEVの電費向上や航続距離延長に貢献します。

- 超幅狭軸受「JTEKT Ultra Compact Bearing® (JUCB)」 MBD*の活用で究極の幅狭を実現、ユニット軽量化で電費に貢献
- 導電軸受「JTEKT Ultra Earth Bearing® (JUEB)」当社グループシーズを活用し耐電食性・小型化両立で電動化に貢献
- 幅短縮デフサイドシール「JTEKT Ultra Compact Seal® (JUCS)」



※出力150kWの同軸タイプeAxleでの自社算出
※括弧内は特許維持件数(特許数と出願数の総計)

産業機械用における成長領域への対応

- ロボット減速機用 超薄肉玉軸受 ※特許維持件数(8件)
長寿命化技術を超薄肉軸受に適用し、性能向上(低騒音、低振動化)、信頼性向上・小型化に貢献



※ JTEKT Ultra Earth Bearing及びJUEB、JTEKT Ultra Compact Seal及びJUCSはジェイテクトの登録商標です。

工作機械・システム事業本部

研削盤を主体とする工作機械に、ロボットやAI技術、IoTソリューションを組み合わせて新たな価値をご提案。お客様のモノづくりをライフサイクル全てにおいてサポートし、お客様の事業と社会の発展に貢献していきます。

経営役員
工作機械・システム事業本部長
荒井 義博



足元の取組み	将来に向けた活動
<p><競争力の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研削領域 No.1 の実現に向けた取組み ・グループ総合力で製品ラインアップの拡充を進め社会変化に応じた幅広いニーズに対応 ● 構造改革で体質強化の継続 ・DX活用や社内外の最新技術と知見を取り入れ、設計と作り方の改革で良質廉価を実現 	<p><新たな価値の創出></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会課題の解決に向けたソリューション提案 ・自動化/省人化、カーボンニュートラル対応製品の拡充 ● 社会変化に応じて必要とされる加工技術・工法の開発 ・難削材や脆性材に対する加工がもつ課題の解決

2022年度の実績

市場は、総じて堅調に推移しましたが、材料・輸送・エネルギー費用が急激に高騰するなどインフレ影響を大きく受ける厳しい環境でした。

そのような中でも、生産性向上と原価低減を進めた結果、円安効果もあり前年度比で増収増益となりました。

今後の見通し

地政学的リスクやインフレの継続などにより、先行きは依然として不透明な状況で、設備投資需要は一服感が出てきています。ただし、自動化/省人化・カーボンニュートラル対応や、自動車の電動化対応などに関する設備投資需要は根強い状況です。こういった需要を取り込むことによって2023年度は前年度並みの売上高を確保する計画を立てています。

また、利益率向上のために徹底したムダの排除と、業務効率化を進め、更なる原価低減に取り組みます。

自動化/省人化への対応としては、ロボット・搬送装置との組み合わせ、計測技術とAI技術を活用し、新しい加工技術を提案していきます。

自動車の電動化への対応としては、製品ラインアップを拡充して、幅広いニーズに対応していきます。

社会変化に応じた新しい加工ニーズにお応えし続けるために、難削材や脆性材の加工技術・工法開発を当社グループ一体で進め、社会の発展に貢献していきます。

No.1 & Only One に向けた取組み

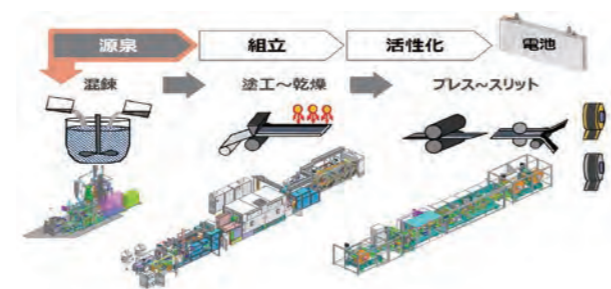
研削領域 No.1

- ・グループ総合力で圧倒的競争力の実現
- ・製品ラインアップの拡充



トヨタ自動車株式会社の電動化対応に貢献

- ・電池性能の肝である源泉工程を支える
- ・シンプル、スリム、コンパクトをコンセプトにした設備で省スペース高生産性を実現



● 電池性能の肝である源泉工程を支える

アフターマーケット事業本部

これまででは 補修市場のお客様へ必要な商品を出来るだけ早くお届けする

- 目指す姿
- ✓ お客様の価値創造活動が持続的に見えるように
 - ✓ 多種多様な商品・サービス・うれしさを提供し、
 - ✓ お客様の困りごと解決、また、困りごとの未然防止に貢献

経営役員
アフターマーケット事業本部長
石岡 賢一



ライフサイクルを支えるソリューションパートナーへ!!

我々の宣言「補修・市販市場においてお客様にとって無くてはならない存在へ」

足元の取組み	将来に向けた活動
<p>世界中のお客様に寄り添い(①)</p> <p>プロダクトライフサイクルを支え(②)</p> <p>安心・安全をお届けしてまいります。(③)</p>	<p>既存商品の枠を超え、お客様視点で</p> <p>新たな価値を創造しお届けする(④)ことで、</p> <p>お客様を支えるソリューションパートナーとなることを目指します。</p>

①世界中のお客様に寄り添える存在へ

2022年ジェイテクトは、ブランド名を「JTEKT」に統一しました。補修市場におきましても、ジェイテクトグループの持つ様々な商品を通じて、世界中でお客様の更なるご期待にお応えしてまいります。



②プロダクトライフサイクルを支えられる存在へ

お客様に長く製品をご使用いただけるよう、補修向けステアリング・駆動部品をはじめ、市販商品ラインアップ拡大を更に進めてまいります。



また、自動車補修品検査システム「PARTS NAVI Ⅲ」の運用を開始。お客様の補修ニーズにスピーディにお応えいたします。

③安心・安全をお届け出来る存在へ

軸受の状態を診断する「ベアリングディフェンダー」をはじめ、お客様の安心・安全な設備稼働をサポートしてまいります。



④新たな価値を創造し、お届け出来る存在へ

自転車用セラミック軸受「ONI BEARING®」の販売を本格スタートいたしました。各地の自転車イベントで試乗体験会を開催、SNSでも情報を発信しています。当社のNo.1 & Only One技術により、お客様に快適でダントツの走りを提供してまいります。

